

# 東京古書組合百年史展

古書店（古本屋）の歴史は江戸時代までさかのぼり、文学史上も作家・読者双方にとってたいへん重要な場所でした。

東京では明治二十年代後半から神田神保町に古書店が集中し、それまで中心だった和綴じの古典籍から、洋装本の古書を商う店が大勢となって軒を連ねました。

個々の店が扱う分野が専門化していき量も増えていくと、仕入れの効率化がはかられ各地で交換市が開かれましたが、その公正を図り価格を適正に定めるために、同業組合が求められました。こうして大正九（1920）年、神田小川町で東京古書籍商組合が創立されました。

組合は各地の交換市を管理し、古書即売展を定期的に行いました。有力な古書店、優れた店主が査定する古書価格は、全国的な標準となっていきました。またこうした有力な古書店で修業した青年たちが、全国各地で新たに店を開きました。

北海道札幌・小樽においても古書店の歴史は古く、明治二十年代、狸小路の屋台のような店に始まり、昭和初頭には十数軒が増え、市場の混乱を防ぐため昭和五年に札幌古書籍商組合が結成されました。

小樽では明治三十一年に文屋書店が、三十六年には工藤書店が開店。大正時代の小林多喜二や伊藤整も安価な古本文学書をこうした店で購入し、読み耽りました。

東京古書籍商組合創立1000年を記念し『東京古書組合百年史』が刊行された機会に神田神保町で開かれる記念展を核として、小樽・札幌の古書店史もたどる企画展です。



左の写真の博信堂書店を拡大  
（「古書売買並貸本」とある）



小樽市西通北線舗装竣工後之光景（昭和11年。博信堂書店や栗田写真館の位置はほぼ変わらない）



古書店の主人と話し込む木ノ内洋二少年（後の詩人。昭和29年14歳のころ）

会館 休館日  
開館時間  
会場  
主催  
後援

令和3年12月18日（土）～令和4年2月13日（日）  
毎週月曜日（1月10日を除く）、年末年始（12月29日～1月3日）、  
1月11日（火）・12日（水）、2月1日（火）～4日（金）  
9時30分～17時（入館は16時30分まで）  
市立小樽文学館無料展示スペース  
無料  
市立小樽文学館 東京都古書籍商業協同組合  
小樽文学舎 小樽・札幌・函館・釧路・旭川古書籍商組合

## 市立小樽文学館

〒047-0031  
小樽市色内1丁目9番5号  
tel.fax.0134-32-2388

小樽文学舎サイト文学館ページ  
otarubungakusha.com/yakata

メールアドレス  
otarubun@otarubungakusha.com

公式ツイッター  
QRコード

